

VI Academic Exchange with Foreign
Institutions (Annual Report (2nd semester,
2018-1st semester, 2019))

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松田, 紀子, ライアン, 優子 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.14945/00027183 |

VI 海外大学・機関との交流

松田 紀子／ライアン 優子

1. 大学間・部局間交流協定

当該期間に、次の7件の大学間協定、6件の部局間協定が新たに締結された。

(協定校名(国名) 署名月)

〈大学間交流協定〉

| | |
|------------------------|----------------|
| 国立薬科教育研究所 (インド) | H30 (2018) .10 |
| マリアノ・マルコス州立大学 (フィリピン) | H30 (2018) .11 |
| バングラデッシュ農業大学 (バングラデシュ) | H31 (2019) . 2 |
| 忠南大学校 (韓国) | H31 (2019) . 2 |
| マラヤ大学 (マレーシア) | H31 (2019) . 2 |
| ヤシ農業科学獣医学大学 (ルーマニア) | H31 (2019) . 2 |
| トロワ工科大学 (フランス) | R1 (2019) . 6 |

〈部局間交流協定〉

| | |
|-------------------------------|----------------|
| □理学部・総合科学技術研究科理学専攻 | |
| 四川大学 物理科学技術学院・原子核科学技術研究所 (中国) | H30 (2018) .12 |
| リール大学 理工学部 (フランス) | H31 (2019) . 2 |
| □工学部・総合科学技術研究科工学専攻 | |
| アーヘン応用科学大学航空宇宙工学部 (ドイツ) | H31 (2019) . 3 |
| □農学部・総合科学技術研究科農学専攻 | |
| ランブン大学 農学部 (インドネシア) | H30 (2018) .10 |
| □電子工学研究所 | |
| オンタリオ工科大学 (カナダ) | H30 (2018) .10 |
| □グリーン科学技術研究所 | |
| バングラデッシュイネ研究所 (バングラデシュ) | H31 (2019) . 3 |

2. 海外同窓会活動・海外における静岡県内自治体、企業との連携

国際連携推進機構は、各国の卒業生のネットワーク強化と、海外の活動における静岡県の自治体、企業との連携推進に努めている。これまでタイ、インドネシア、ベトナムにおいて静岡大学海外同窓会を運営しており、当該期には、マレーシアにおける同窓会の立ち上げを行った。

マレーシア同窓会 立ち上げ集会

日時 平成31 (2019) 年2月23日(土)

12:30～14:00 ネットワーキング懇親会

14:00～15:30 同窓会 (役員を選出)

場所 Hilton Kuala Lumpur

参加者 40名

- ① 本学同窓生 留学生28名（短期研修学生含む）
- ② 協定校関係者 3校8名
- ③ 静岡県シンガーポール事務所 1名
- ④ 本学関係者 3名：白井靖人学長補佐（国際交流担当・国際連携推進機構副機構長）、国際連携推進機構教員1名、国際交流課職員1名

同窓会役員選出

会 長：Mohd Khairul bin Ahmad氏 トゥンフセイオンマレーシア大学教員
副会長：Mohd Faiz Bin Mohd Salleh氏 マラヤ大学教員

3. 海外拠点整備

1) タイ海外事務所（平成21（2009）年開設、タマサート大学内）

平成30（2018）年2月にタマサート大学東アジア研究所から、同じランジットキャンパス内の理工学部へと移設をしたタイ事務所では、同事務所付きの非常勤スタッフ1名が週に一日の活動を行った。主な活動内容は、タイからの留学生の派遣支援活動で、アジアブリッジプログラムの学士課程を中心とする静岡大学の広報である。

2) インドネシア海外事務所（平成22（2010）年2月開設、ガジャマダ大学農学部内）

当事務所には、Skype用スクリーンを設置し、インドネシアにおける活動を活性化させるためのインフラ整備が充実している。ガジャマダ大学教員の本学客員教授への任命を通じて、毎年農学部がガジャマダ大学農学部の協力を得て「海外フィールドワーク」科目として1週間の現地実習を行う際の現地のコーディネートをを行うほか、本学職員の海外研修派遣としての現地訪問として積極的に選択されている。また、インドネシアでは、平成27年3月からインドネシア大学工学部の厚意で提供いただいているスペースに設置したSkype用スクリーンやパソコンを活用して、本学とインドネシア大学をつなぐSkype会議を重ねて開催するなど、交流活動を活発に進めている。

3) ベトナム海外事務所（平成27（2015）年3月開設、ベトナム・ハノイ国家大学外国語大学内）

ハノイ外国語大学内にSkype用スクリーンやパソコンを本学から提供して設置し、本学教職員の現地訪問時の活動拠点としている。

4) ジョイントラボの設置（令和元（2019）年9月開設、マレーシア工科大学内）

大学間交流協定校のマレーシア工科大学UTM内に、本学グリーン科学技術研究所とUTMのInstitute of Bioproduct Developmentとのジョイントラボが開設され、開設記念式典に本学白井副学長（国際戦略担当・国際連携推進機構長）らが出席した。今後の共同研究の推進などが期待される。

4. インターアカデミア・アジア Inter-Academia Asia 2018

「インターアカデミア・アジア」は、アジア地域（主に東南・南アジア地域）の協定大学と連携し、アジアを中心とする海外で活躍するグローバル人材育成のための新たな教育プログラム「アジアブリッジプログラム（ABP）」の実施に向けた協力体制の構築や、修士課程に焦点をあてた研究・教育における交流促進を主な目的として、平成26（2014）年2月の準備会合を皮切りに、原則年1回の会議を開催している。平成30（2018）年12月の第5回会議は、静岡大学が主催校となり静岡市で開催された。会には海外の5か国8大学から15名（教員8名、学生7名）を招聘した。

12月3日月曜日、初日のラウンドテーブルミーティングは、静岡大学の白井靖人教授（情報学部・国際連携推進機構副機構長）による挨拶に始まり、松田紀子教授（国際連携推進機構）の議事進行により、招聘8大学と静岡大学の修士課程における国際化の取組に関する事例発表と意見交換を行った。各大学の海外の教育・研究ネットワーク展開、取り組んでいる研究課題には共通性のある部分も多く、より国際連携を強めるために有意義な情報交換の機会となった。同日夜の交流会には、招聘教員と共同研究を行う静岡大学の教員や、研究科の教員が参加し、冒頭の鈴木滋彦副学長（国際戦略担当・国際連携推進機構長）による歓迎の挨拶に始まり、各協定校から来ている教員、学生間の親睦を深める時間となった。

12月4日火曜日、2日目のYoung Researchers Conferenceでは、静岡大学の大学院から25名、招聘大学の大学院から7名が参加し、英語による研究発表を行いました。浜松キャンパスからも多くの参加者があり、静岡大学修士課程の全6専攻（理学・農学・情報学・工学・人文社会・教育）の分野で発表があった。招聘大学の教員が各分科会のチェアを務め、15分間の発表の後に、質疑応答を行った。

12月5日水曜日、3日目は各キャンパスに会場を移し、研究科の訪問を行った。静岡キャンパスでは、参加全5か国6大学からの招聘者が理学・農学・人文社会学の研究科を訪問し、研究・教育活動について、意見交換をした。浜松キャンパスでは、マレーシア、インドからの招聘者が工学、情報学の各研究科を訪問した。静岡キャンパスでは、午後に日本平と東照宮を訪問する市内ツアーを行い、静岡の歴史・文化遺産を楽しんだ。

今回で5回目となるインターアカデミア・アジアの会議には、これまでに10か国32大学・機関が参加をしている。本会議は、修士課程の国際化を焦点に、大学間の協力関係を強化する機会として今後も継続して開催する予定である。

海外協定校 8大学

〈参加大学〉 海外協定校 8大学、教員 8名、学生 7名（以下、カッコ内は対応部局）

インド インド工科大学ハイデラバード校（人文社会）

インドネシア インドネシア科学院LIPI（理）、ランプン大学（農）

タイ チェンマイ大学（国際）

マレーシア プトラ大学（工）、マラヤ大学（工）

ベトナム ハノイ国家大学外国語大学（国際）、トンドクタン大学（情）

5. Inter-Academia インターアカデミア 2019

令和元（2019）年9月4日から7日までの4日間、中東欧の協定校との国際会議第18回 Inter-Academia 2019が、ハンガリーの協定校オブダ大学を幹事校として、ブダペストとバラトンフレドを会場に開催された。9か国の大学から51名が集まり、本学からは木村雅和教授（理事）、原和彦教授（創造科学技術大学院長）、三村秀典教授（電子工学研究所長）をはじめ25名の教職員と大学院生が参加した。開会式では、今年度議長のオブダ大学 Annamária R. Várkonyi-Kóczy 教授の進行により、同大学の Levente Kovács 学長から「日本とハンガリーとの外交関係開設150周年、また同大学初の学部開設から140年周年の記念の年に、ハンガリーで開催されることを光栄に思う」との挨拶があった。続いて、木村理事、原教授、Ryszard Jablonski 教授（ワルシャワ工科大学）、Dumitru Luca 教授（アレクサンドル・イワン・クザ大学）、来賓としてご臨席いただいた公益財団法人スズキ財団専務理事守田義郎様から挨拶があった。

次いで、近藤淳教授、Jablonski 教授による招待講演を皮切りに、3日目の青木徹教授、Luca 教授による招待講演を挟んで、31件の一般口頭発表、大学院生を中心とした若手研究者による10件のショートプレゼンテーション、若手を含めた23件のポスターによる研究発表が行われた。ショートプレゼンテーション参加者対象の Young Researchers Award には、静岡大学院生1名を含む4名が選ばれた。

閉会式では、次回令和2（2020）年の会議を主催するゴメル大学（ベラルーシ）の Igor Semchenko 副学長が、会議予定についてプレゼンテーションを行い、インタアカデミアのメンバーに新たにモルドバ国立大学が加わったことが報告された。最後に、各大学の代表より、Várkonyi-Kóczy 教授と現地実行委員会への謝辞が述べられ、会議の幕を閉じた。

6. 日本学生支援機構「海外留学支援制度（協定受入・協定派遣）」

本事業は、学生の超短期での海外派遣・受入れを推進することを目的として平成23（2011）年7月より開始された奨学金事業で、平成27（2015）年度から「海外留学支援制度（協定受入・協定派遣）」（双方向協定型：1 Semester 以上の交換留学、短期研修・研究型：8日以上1年以内）として実施されているものである。高等教育機関には、交流校との間で短期の学生の派遣・受入れの教育プログラム（単位付与を伴う）を構築することが期待され、このプログラムに参加する学生に一定の奨学金が支給される。

当該時期における本学の申請、採択状況および延べ受給学生数は、以下のとおり。

平成30（2018）年度：

- 学生交流創成タイプ（タイプA）申請8、採択1（協定派遣 短期研修・研究型）
- 学生交流推進タイプ（タイプB）申請0

令和元（2019）年度：

- 学生交流創成タイプ（タイプA）申請6、採択0、追加採択1件（双方向協定型）
追加採択1件の実績：受入24名、派遣15名
- 学生交流推進タイプ（タイプB）申請1、採択1（協定派遣 短期研修・研究型）

7. 修士課程ダブルディグリープログラム（複数学位制度、DDP）

平成29（2017）年2月に静岡大学総合科学技術研究科工学専攻と台湾国立中央大学工学部との部局間交流協定に基づく修士課程ダブルディグリープログラムの覚書が交わされ、平成30（2018）年度後期から令和元（2019）年度前期までの期間には、双方の大学において派遣生の受入が各1名あった。

8. 海外教育機関との往来訪

来 訪

| | |
|--|--|
| 10/9-19 マレーシア工科大学 職員研修4名 | マレーシア |
| 10/15 ガジャマダ大学 Siti Subandiyah教授、バンドン工科大学 Dr. Eka Mulya Alamsyahほか教員2名 | インドネシア |
| 11/1 カンボジア工科大学 学生・教員（JICE） | カンボジア |
| 11/12 モンゴル教育・文化・科学・スポーツ省推薦高校生（静岡県・さくらサイエンス） | モンゴル |
| 11/12 ウダヤナ大学、ガジャマダ大学（工学・さくらサイエンス） | インドネシア |
| 11/27 インドネシア大学 工学部長・教員 | インドネシア |
| 12/3-5 インターアカデミアアジア第5回会議 | インド、 インドネシア、 タイ、 マレーシア、 ベトナム |
| 12/15-17 タイ高校生4名（タマサート大学The Science Classrooms in University Affiliated Schools Project（SCIUS）海外研修）、引率教員2名、タマサート大学 | タイ |
| 1/15 日本語学校（マラン） | インドネシア |
| 1/16 西南物理研究院および四川大学（理学・さくらサイエンス） | 中国 |
| 1/17 韓国水原市大学生 教育学部訪問（対日理解促進交流プログラム JENESYS2018） | 韓国 |
| 1/21 福州大学材料科学与工程学院（工学・さくらサイエンス） | 中国 |
| 1/24 東国大学（理学・さくらサイエンス） | 韓国 |
| 3/6 忠南大学、バン格拉デシュイネ研究所 協定調印、超領域研究三部局国際シンポジウム | 韓国、 バン格拉デシュ |
| 4/9 西ボヘミア大学 教員ほか3名（人文社会） | チェコ |
| 4/25 アルバータ大学 Dr. Martin Guardado（英語学校長、課外教育学部）、Ms. Justine Light（プログラム開発長） | カナダ |
| 4/24 チェンマイ大学 Ms. Benjang Jaisai der Arslanian（日本研究センター長） | タイ |

| | |
|---|-------|
| 5/21 リガ工科大学 Prof.Igors Tipans (副学長)、Ms.Anna Sedova (国際交流担当) 協定更新署名 | ラトビア |
| 5/23 アルバータ大学 Gretchen Dubois-Phillips (国際副局長) | カナダ |
| 5/24 アーメダバード大学 Dr. Bibek Banerjee (学部長, Strategic Initiatives and Planning) | インド |
| 5/30 ネブラスカ大学オマハ校 教員4名 (協定締結40周年事業、「国際フッサール・カンファレンス:Husserl in Japan: Global Studies in Philosophy and Religion」)、留学生交流会 | アメリカ |
| 6/27 マレーシア科学大学 職員3名、職員交流会 | マレーシア |
| 7/1 中国科学院等離子体物理研究所・華中科技大学 (理学・さくらサイエンスプラン) | 中国 |
| 7/30 ワルシャワ日本語学校 教員・学生7名 | ポーランド |
| 8/27 アストン大学 Sotos Generalis 研究担当副学部長、工学・応用科学部 | イギリス |
| 9/26 プトラマレーシア大学工学部 電気電子学科 准教授Suhaidi Shafie他 教員6名 | マレーシア |

往 訪

| | |
|---|--------|
| 10/1 JICA 日本留学フェア (ウランバートル) | モンゴル |
| 10/1-3 日本語学校 (ジャカルタ市内)、パジャジャラン大学、バンドン工科大学、海外職員研修 | インドネシア |
| 10/6-7 JASSO留学フェア (ハノイ、ホーチミン) | ベトナム |
| 10/21-29 インド工科大学ハイデラバード IITH (ジョイントセミナー、JICA IITH-Japan Collaboration Academic Fair 2018)、日本語学校ほか | インド |
| 10/30 日英高等教育フォーラム (東京) | |
| 11/24-27 マリアノ・マルコス州立大学: 交流協定調印、セミナー、ラウンドテーブル、海外職員研修 | フィリピン |
| 12/7 日仏高等教育シンポジウム (東京) | |
| 2/22-23 マレーシア同窓会 (クアラルンプール) プトラマレーシア大学、マラヤ大学 | マレーシア |
| 5/25-27 日中大学フェア&フォーラム in China 2019 (四川省成都市) | 中国 |
| 6/2-5 JUNEフェア バンコク 日本大使館 | タイ |
| 8/22-26 日本留学フェア (バンコク、チェンマイ)、海外職員研修 | タイ |
| 8/27-9/2 日本留学フェア (ヤンゴン) | ミャンマー |
| 9/3 ブダペスト工科経済大学 招へいプログラム紹介、海外職員研修 (ブダペスト) ほか | ハンガリー |
| 9/4-9 Inter-Academia 2018 (オブダ大学)、海外職員研修 | ハンガリー |

| | |
|---|-------|
| 9/5-15 ABP副専攻 海外研修 (ハノイ) | ベトナム |
| 9/23-26 マレーシア工科大学UTM ジョイントラボ開設式、国際交流基金 (JF)、JASSO海外事務所、日本国際工科院 (UTM-MJIIT)、海外職員研修 | マレーシア |